

福米中学校区の取組

1. 心の教育・生徒指導部

(1) 小中合同リーダー研修

本校区では心の教育・生徒指導部が中心となって、生徒の自治力を高め、心から安心して誰もが楽しめる学校、地域づくりを目的としている。この取り組みの中心となるのが「小中合同リーダー研修」である。中学校の生徒会執行部を中心とするリーダーと校区2小学校の6年生のリーダーが定期的に集まり、よりよい学校、地域づくりについて話し合いを行っている。話し合いの中から出てきた取り組みを小中学校合同で実践化したり、中学生から受け継いだ「自治の取り組み」を小学校で下級生に伝えたりして、自校の実践につなげている。

○取り組みを行った経緯

本校で取り組んでいる「自治の取り組み」を校区の小学校にも広げて校区で取り組むことで、小学校でも自治の力が育ち、中学校へのスムーズな移行（中 1 ギャップの解消）も可能になると考えて行っている。

○具体的内容と実践について

目的：いじめやからかいをなくし、誰もが安心して楽しめる学校、地域にしていくために具体的な計画や運営を行う

対象：中学校執行部 12 名（11 月からは新執行部）各小学校代表児童（児童会より）10 名ずつ

	小中合同リーダー研の内容	リーダー研後の実績
6/16(木)	<ul style="list-style-type: none"> リーダー研修会に対する心構え 話し合い活動「校区からいじめやからかいをなくし、誰もが安心して楽しめる地域にしていくため」に何ができるか話し合った。 	
8/24(水)	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動 前回の取り組みに対する振り返りと小中合同で取り組める具体的な活動について話し合った。 	小中合同ボランティア活動の実施
10/4(火)	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動 中学生がアドバイザーとなり、各小学校にある課題について解決策を話し合った。 	小学校での児童会の活性化
11/15(火)	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い活動 小学校のリーダーだけでなく全体を巻き込んだ話し合い活動にするために話し合いのテーマを考えた。 	小学校交流会 西小 12月8日 実施 東小 12月15日 実施
1/17(火)	<ul style="list-style-type: none"> 交流会を受けて各学校での取り組みについての報告と今後の取り組みについて話し合った。 	新入生説明会で発表予定
2/8(水)	<ul style="list-style-type: none"> 新入生説明会 両小学校の生徒が全員集まる場で、各小学校の取り組みを発表し、両校の連携を図るとともに、中学校入学後の生活への意欲付けを行う。 	(予定)
2月下旬	<ul style="list-style-type: none"> 話し合い 小学校の5年生（新リーダー）を含めた話し合い活動を行い、今年度のまとめと次年度への繋がりをつくる。 	(予定)

○成果

上記にも示したようにリーダー研修会から出た意見から様々な活動を実現することができた。

- ・小中合同あいさつ運動 … 月に1度、中学生が各小学校に出向き地域の方や小学生と行う。
- ・ボランティア活動 … 公園や海岸など地域に出向き、小学生と地域、保護者の方と一緒に清掃活動を行う。
- ・小学校交流会 … 6年生全員を中学校に招き、小グループに分かれ、中学生と話し合いを行う。

以上のような具体的活動を通して、自らの課題は自分たちで解決していくという自治の考え方が生徒にも浸透していくなかで、学校や学級の中でも広い視野や周りへの気遣いなどができる生徒が増えてきた。また、小中での活動は小学6年生にとっても中学校入学への不安が解消されると共に最上学年としての意識が芽生え、各学校のリーダーとして活躍もしている。昨年同様、今年度も中学校で学んだことをもとに上学年集会を開き、自分たちの課題を自分たちで解決していくという考えを下級生につなげている。



(2)「小中合同あいさつ運動」

福米中学校生徒会目標「心から安心して 誰もが楽しいと思える学校を みんなで築こう」を達成するために本校で「あいさつ運動」を行い生徒同士の繋がりを作ろうと取り組んでいるが、「その運動を小学校にも広めることができるか」という「小中合同リーダー研修」の中の発案より「小中合同あいさつ運動」を行うことになった。運動は毎月1回月初めに行い、本校生徒（生徒会、各学年中央委員）と各小学校代表児童、地域の方と各小学校で行っている。

成果としては、小中学生で交流を行うことでお互いに顔がわかり、生徒達が目指す「繋がり」が出来てきている。また、地域の方と活動を定期的に行うことで「地域との繋がり」も出来てきている。これがきっかけになり校区全体で「安心できる」地域にすることに繋がっていくと思う。

これからの課題としては、小学校からの要望でもあるが年間を通じた計画(それぞれの学校の行事とも関係)を立てていくことが必要である。



(3) 小中合同VS活動

小中合同VS活動とは、平成26年度の小中リーダー研修において、「自分たちの校区を自分たちの手で素敵なものにするには」というテーマの話し合い活動で提案され、実現したものである。

元々、福米中学校で行っていた校内VS活動のノウハウを利用し、小学校・保護者・地域の方々と協力し、児童・生徒自身から出てきた「自分たちの住む校区を自分たちの手でよりよくしていきたい」という願いを「小学生と中学生で地域に出て、ボランティアを行う」という形で実現した。この活動の核となる考え方は「自分たちの住む校区を自分たちの手でよりよくしていきたい」、つまり、“自治”にある。ここが単なる奉仕作業、清掃活動と大きく異なる部分である。あくまでボランティアなので、生徒全員の参加は求めない。「自分たちでやろう」という呼びかけのもと、だんだんとその声の輪が広がってきた。実際にこれまで4回行っているが確実にその輪は広がり、自ら進んで地域に貢献し、地域を創造していく意欲は増している。(参考資料1)

この活動を行うにあたって、特に気をつけていたポイントは、呼びかけの主体となる生徒会執行部の生徒とかかわる際に、教員からの押しつけではなく、生徒が主体的に考え、行動するように、あくまでサポート役に徹するということである。生徒自身で考えられるように仕組み、生徒の自治の力の成長をどのように促していくのかに配慮した。具体的には、中学校執行部から小学生への趣旨の説明会を開くことや執行部と小学生のリーダーが目的の共有を図ることで小学生にも自治の感覚をもってやらせようこと、また、募集要綱の作成や応募方法などを生徒自身で考えさせることである。そのなかでも特に、来年度、中学生として本校に入学してくる小学6年生に、この福米中学校での「自治の取り組み」を、今回のVS活動を通じて体感してもらいたいという趣旨をどう伝えればよいかを考えた。その結果、第1回小中合同VS活動の際は、生徒会執行部の生徒が小学校に出向き、6年生に「このような思いでこの活動に臨んでほしい」ということを伝える方法をとった。また、第2回、第3回、第4回小中合同VS活動の際は、小学生のリーダーたちと中学校の生徒会執行部とで、話し合いを行い、「どのような思いでこの活動に臨むのか」の意思疎通を図り、各学校のリーダーたちが伝えていくという方法をとった。どの回も、当日はその趣旨を理解して臨んでくれる児童生徒が多くおり、活動の良さを感じることができた。

この活動の成果としては、3つあげられる。1つ目は、多くの生徒が自らよりよい地域を創ろうを思い、その思いを行動に移すことができたということである。2つ目は、生徒会執行部の生徒に自分たちで企画・運営することができたという充実感を与えることができたということである。そして3つ目は、6年生の時にVS活動に参加した児童が、中学生になって今度は自分たちがこの活動の輪を広げていこうとする意欲を持つことができたことである。

学校は変化していく。生徒はもちろん、生徒会執行部や教員も変わっていく。その中で「自分たちの地域は自分たちで創っていこう」という「自治の思いの継続」と、今回までの取り組みで出た小学校・地域との連携面や意思疎通、活動場所・日程の設定などの反省点・修正点を改善していき、より多くの生徒が「自治」に取り組んでいける環境を整えていくことに力を注ぎたい。



(参考資料1)

VS活動中学生の参加人数の変化

第1回VS活動	第2回VS活動	第3回VS活動	第4回VS活動
H27. 7. 9	H27. 11. 19	H28・7. 8	H28. 10. 19
152名	216名	228名	331名

※全校生徒575名のうち第4回では半数以上がボランティアとして参加をした。

※第1回から比べると2倍以上に参加人数が増えている。

(生徒感想)

やっぱり、中学生・小学生という仕切りはあっても「同じ福米中校区・地域の仲間なんだ」と実感しました。だからこそ、これからもこういった活動を通して、もっといろんな人と繋がり、そしてその繋がりをさらに深めていくことが、これから“より安心できる、あったかいすてきな地域”を築くために大切だと思います。今回このVS活動を通して、本当に小学生、そして地域の方々と繋がれて、距離がぐっと縮まったので、今朝は、すごくあいさつがしやすかったです。今まで参加したVS活動の中で一番心に残るVS活動でした。

(4) 小中交流会

一昨年から、各小学校の6年生を招いて交流会を行っている。その目的は2つあり、1つ目は、小学6年生が4月に入学するにあたり、小学生が抱える課題に対して、中学生が自分たちの経験したことを伝えることで中学校に対する不安を取り除くことである。(中1ギャップの解消)2つ目は中学生が、上級生(先輩)としての自覚を持ち、小学生は、中学校の自治の取り組みに触れることにより、主体的に考え、自らが行動することで課題解決への大きな力となることを知ることである。(自治力の向上)



今回の交流会のテーマを考えるにあたって、毎月行っている校区のリーダー研修会の中で米子市小中サミット宣言『自分たちでつくっていこう!みんなにとって安心な学校を安全な学校を 楽しい学校を』に向かっていくために、6年生全員を巻き込んだ話し合いを行いたいと考え、そこでそのテーマを絞るためにそ

れぞれの学校での現状について話し合いを行った結果、嫌な思いをしている仲間がいることを確認できた。そこで、「ネット・ゲーム内、校内で嫌な思いをしている人がいたらどうしますか?」というテーマを児童・生徒達が考えた。

福米西小学校は12月8日、福米東小学校は12月15日に実施した。各小学校6年生と中学校は生徒会執行部1、2年生12名、1、2年生各クラス中央委員2名の合計24名が参加し、各グループ小学生5名と中学生2名のなか、中学生がファシリテーター(進行役)となり話し合いを進めていった。内容としては、①「嫌な思いになることはどんなことか」②「嫌な思いをしている仲間がいたときどう行動するか」③「そ



の行動するためには何が必要か」という流れで、自分達で問題点を探し、自分達の力で主体的に解決策を見出していくことに重点をおき話し合いを行った。小学生の表情も最初のうちは硬かったが、自分の意見を受け入れてもらえる安心感からだんだんと表情が和らぎ、とても良い雰囲気の時間を過ごすことができた。この話し合いで得たことを次は小学6年生が中心となり、各小学校で、「先生ではなく自分達の力で解決していく」ことを伝えて言ってくれるものと確信している。

(5) 小中合唱交流について

昨年度より福米中学校区小中一貫教育の取り組みとして、合唱交流が行われることになり、今年度も下記のとおり合唱交流をすることができた。小学校の演奏は、中学生にとって、とても新鮮で、かわいらしくひたむきな姿での合唱に心うたれるものがあった。中学生の演奏は、鑑賞者が小学1年生から6年生までで年齢差があり、感じ方は様々であるが、お姉さん、お兄さんの大人びた歌に、集中して興味深く聴いていた。さらに交流が深まり、いつか同じ舞台で共に歌うことができると、大きな達成感につながると思う。

① 福米東・福米西小学校演奏

10月28日(金) 10:00~10:20 米子産業体育館(本校文化祭)

② 福米中学校演奏

11月 2日(水) 13:20~13:30 福米東小学校体育館

○福米東小学校学習発表会において福米中学校3年5組(米子市中文祭出場)のクラス合唱

11月 9日(水) 10:10~10:20

○福米西小学校学習発表会において福米中学校3年4組(米子市中文祭出場)のクラス合唱

2. 学力向上部

(1) 家庭学習の定着に向けての取り組み

7月1日学力向上部会において、各学校で行っている家庭学習の定着に向けての取り組みの情報交換を行った。家庭学習の習慣化と大きく関わりがあるのが、規則正しい生活習慣の定着やメディア時間であるので、校区で歩調を合わせ、家庭に向けて両方の啓発をしっかりと行うことが重要であることを確認した。

(2) 全国学力・学習状況調査の分析と授業改善および基本的な生活習慣の定着

11月に各学校の学力向上部長が集まり、全国学力・学習状況調査の分析を行い、校区、各学校の課題を確認した。

(3) 夏休み勉強のお兄さん・お姉さんの取組

(中学生による夏休み補充学習指導の実施)

「夏休みに小学生に勉強を教えるボランティアに参加しませんか。」と募集をしたところ、20名の1年生が参加した。福米西小と福米東小に分かれて行った。最初は緊張がうかがえたが、次第に小学生の質問に答えたり、わからないところはないか自分から声をかけたりと、一生懸命に時間の限り教えることができた。



(4) 小学校卒業時の宿題（国語・算数）と中学校入学時の復習テストの実施

小学校卒業時に、小学校国語と算数の復習プリントを配布し、中学校入学時にその内容をテストする。小学校を卒業した後の期間に学習空白がないように、また小学校の学習の定着をねらいとしている。また、中学校としても早期に学習のつまずきが把握できた。

3. 健康教育部

(1) 福米校区生活見直しキャンペーンの取り組み

3校が同じ時期に実施 平成28年 6月13日（月）～17日（金）

平成28年11月14日（月）～18日（金）

平成29年 2月13日（月）～17日（金）

3校が同時期に実施することで、学校、家庭、地域が一緒になって取り組むことができた。この取り組みにより、生活の見直しや、今後のより良い基本的な生活習慣の定着につなげたい。

(2) 標語コンクール 第2回目を実施。

福米校区生活見直しキャンペーンに向けて、3校で標語コンクールを実施した。

そして、委員会活動の取り組みの1つとして、児童・生徒の協力も得て取り組んだ。各学校に3校の児童・生徒の作品を掲示し、意識づけをしたり、表彰状も委員会で作成したりして手渡した。2年目の取り組みになっているので、児童・生徒の標語募集の数も増え、自主的な活動も多くなった。



(3) 給食に関する情報交換

12月給食指導について運用面およびアレルギー対策等、児童・生徒の安全に関わる情報交換を実施。

(4) 全校体育の連携

全校体育を小・小連携で進める。

中学校は、体育の準備運動等で取り組んだ。体幹強化につなげたい。

(5) 健康教育部会の開催

健康診断結果・体力測定結果・生活習慣結果等の情報交換を年度初めの会で実施した。

(6) 小学生への中学生水泳指導

夏休みに実施。福米東小学校2回、福米西小学校1回、水泳部の生徒が小学校へ行って水泳指導を行った。小学生も中学生も楽しい時間を過ごすことができた。

4. 人権教育部

(1) 年間計画見直し

人権教育主任会を3回実施し、年間計画の見直しを行った。7月の人権部会で各学校の児童・生徒の実態を共有した上で、同和問題学習については、各小学校の使用教材を確認し、共通化を図り、小中の連携を進めている。

(2) 情報モラル教育年間指導計画作成

ネット利用に伴う諸問題の解決のために、小中9年間を見通した情報モラルの年計の作成を行った。文科省委託事業および小教研が作成している年計に基づき、各学校の実態に合わせ協議を重ね、作成に至った。来年度から本格的に実施していく。

(3) 合同授業研究会

10月21日(金)に米子市立福米東小学校にて、中学校区人権教育公開授業を行い、中学校区の教員が参加した。「児童に育てたい資質・能力」が明示された学活や道徳等の授業が行われ、人権教育に対する児童の実態を共有することができた。参観者は授業に対する感想・意見を共有し、授業改善に生かした。

5. 特別支援教育部

(1) 部員の活動

- ・特別支援教育主任会を年4回開催。年間計画の作成。
- ・特別支援学級担任会の開催(各学期ごと)。来年度の中学校入学児童に関する情報交換や交流会の打ち合わせ。
- ・特別支援教育部会の開催(年2回)。

第1回の部会では、特別支援を要する児童。生徒の事例をもとにした支援の工夫に関するワークショップを行った。

第2回の部会では、部会に参加していない職員も含め、日々の取り組みをシートに記入してもらい、3校がシートをもちより部会を開催。実践の共有や、日ごろの悩みなどをざっくばらんに話し合った。

(2) 児童・生徒の活動

小中特別支援学級児童・生徒交流会を年2回開催した。

小学1年生から中学3年生までの学年をこえた縦の繋がりと小学校同士の繋がりが深まる交流ができるよう、内容などは各校児童・生徒で企画を考え、交流会当日に披露しあっている。交流会後も、お礼の手紙などの交流を続けている。

(3) 個別の児童、保護者との小中一貫連携

小学校6年生の児童、保護者の中学校授業体験だけでなく、小学校5年生や4年生の生徒保護者、教員の中学校見学や相談なども随時受け付け、9年間の就学支援がスムーズに行えるよう小中の連携を図っている。

